

## 24 コピー削除の理論と説明すべき諸現象

**コピー削除 (Copy Deletion)** とは、移動 (内的併合) によって生じる複数のコピーのうち発音される1つのコピーを除いた他のコピーを消す操作を指す。例えば、(1) のwh疑問文は (1a) のようにwh句のコピーを複数含んでいるが、それらのコピーが全て発音されることはない。これは (1b) に示すように、構造上低い位置のコピーが削除されるためである。

(1) What do you like?

a. 統語部門: what do you like what → Copy Deletion

b. 音韻部門: what do you like ~~what~~

この操作に関しては、しばしば、コミュニケーションに困難を生じさせるという点が指摘されている。例えば (1) のような移動を伴う文を解釈する場合、全てのコピーが発音されている方が文解釈に関わる**言語処理 (processing)** は容易である。一方、コピー削除が適用されると、適用箇所が生じた空所 (gap) 部分に何が存在していたかを考えなければならないため、文解釈に関わる言語処理は困難になる。このことから、コピー削除はコミュニケーションの効率性以外の要因によって要求されると考えられている。Chomsky (2013) によれば、コピー削除は**最小計算 (minimal computation)** という一般的原理から導出される。具体的には、当該操作は (2) の原理に従って適用されると主張されている。

(2) 可能な限り発音を少なくせよ。

この原理に基づくと、複数のコピーが生じる環境では1つのコピーを残して他のコピーが削除される。この議論は、コピー削除を含む言語システムがコミュニケーションの効率性ではなく計算の効率性に基づいて設計されていることを示唆する。

一般的に、コピー削除は構造上最も高い位置のコピーを除いて他のコピーに適用される場合が多い。しかし、複数のコピーが発音される例や構造上低い位置のコピーが発音される例などが観察されており、事実はより複雑である。以下では、コピー削除に関する理論が説明しなければならない諸現象を提示する。

まず、複数のコピーが具現化される例を提示する。ドイツ語や子供の英語などには、複数のwh句のコピーが具現化されるwh複製 (wh-copying) という現象が観察されている。(3) はドイツ語の例、(4) は子供の英語の例である。

- (3) Wer glaubst du, wer dass du bist?

who think you who that you are

‘Who do you think that you are?’

- (4) Who do you think who’s in the box?

ここではwh句 (wer, who) がそれぞれ2箇所 で発音されており, (2) の原理に従わない具現化が起きている。

次に, 高い位置のコピーが削除され, 低い位置のコピーが具現化される例を提示する。ルーマニア語ではwh句が複数現れる場合, その全てが義務的に文頭で具現化される。しかし, 同じwh句が用いられている場合は, 例外的に一方のwh句が移動前の低い位置で具現化される。

- (5) a. Ce precede ce?

what precedes what

- b.\*Ce ce precede?

what what precedes

‘what precedes what?’

(5) は, コピー削除が常に低い位置のコピーに対して適用されるわけではないことを示している。

また, 残余句移動を含む文に対するコピー削除もしばしば議論となる。(6) は動詞句前置を含む文である。

- (6) a. ... and elected, John was

b. ... and [<sub>VP</sub> elected John<sub>1</sub>] John<sub>2</sub> was [<sub>VP</sub> elected John<sub>3</sub>]

コピー削除は一般的に連鎖を形成するコピーに対して適用されるが, John<sub>1</sub> は他のコピーとc統御関係になく, 連鎖を形成していない。このような環境で移動した残余句内のJohn<sub>1</sub> が削除される理由については説明が必要である。

(齋藤 章吾)